

I 調査結果の概要

1 農業経営収支の動向（農家1戸当たり）（表1参照）

(1) 酪農経営

全国の農業粗収益は3,469万円で、前年に比べて0.1%増加した。

これは、乳価の下落により生乳収入は減少したものの、自家生産乳牛収入（自家で生産した育成・肥育乳牛及び交雑種牛の販売収入）が増加したことによる。

農業経営費は2,716万円で、前年に比べて2.0%増加した。

これは、乳牛取得価格の上昇により動物費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は753万円で、前年に比べて6.1%減少した。

(2) 繁殖牛経営

全国の農業粗収益は528万円で、前年に比べて3.9%増加した。

これは、子牛価格が堅調に推移したことによる。

農業経営費は343万円で、前年に比べて4.0%増加した。

これは、原油価格の高騰により光熱動力費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は185万円で、前年に比べて3.8%増加した。

(3) 肥育牛経営

全国の農業粗収益は4,194万円で、前年並みであった。

これは、牛の枝肉価格が堅調に推移したものの、共済・補助金等の受取金が減少したことによる。

農業経営費は3,425万円で、前年に比べて4.1%増加した。

これは、肥育用もと牛取得価格の上昇により動物費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は769万円で、前年に比べて15.0%減少した。

(4) 養豚経営

全国の農業粗収益は4,247万円で、前年に比べて4.1%増加した。

これは、販売頭数が増加したことや、枝肉価格が堅調に推移したことによる。

農業経営費は3,352万円で、前年に比べて4.4%増加した。

これは、飼養規模の拡大により動物費や飼料費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は896万円となり、前年に比べて2.7%増加した。

(5) 採卵養鶏経営

全国の農業粗収益は3,550万円で、前年に比べて18.4%増加した。

これは、国内の鶏卵生産量の減少に伴い、卵価が上昇したことによる。

農業経営費は2,899万円で、前年に比べて2.3%増加した。

これは、飼養規模の拡大により動物費や飼料費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は651万円となり、前年に比べて293.1%増加した。

(6) ブロイラー養鶏経営

全国の農業粗収益は7,675万円で、前年に比べて12.1%増加した。

これは、出荷羽数が増加したことによる。

農業経営費は6,910万円で、前年に比べて10.0%増加した。

これは、飼養規模の拡大により動物費や飼料費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は765万円となり、前年に比べて34.8%増加した。

表1 畜産の営農類型別経営農家の経営収支の動向（全国・1戸当たり）

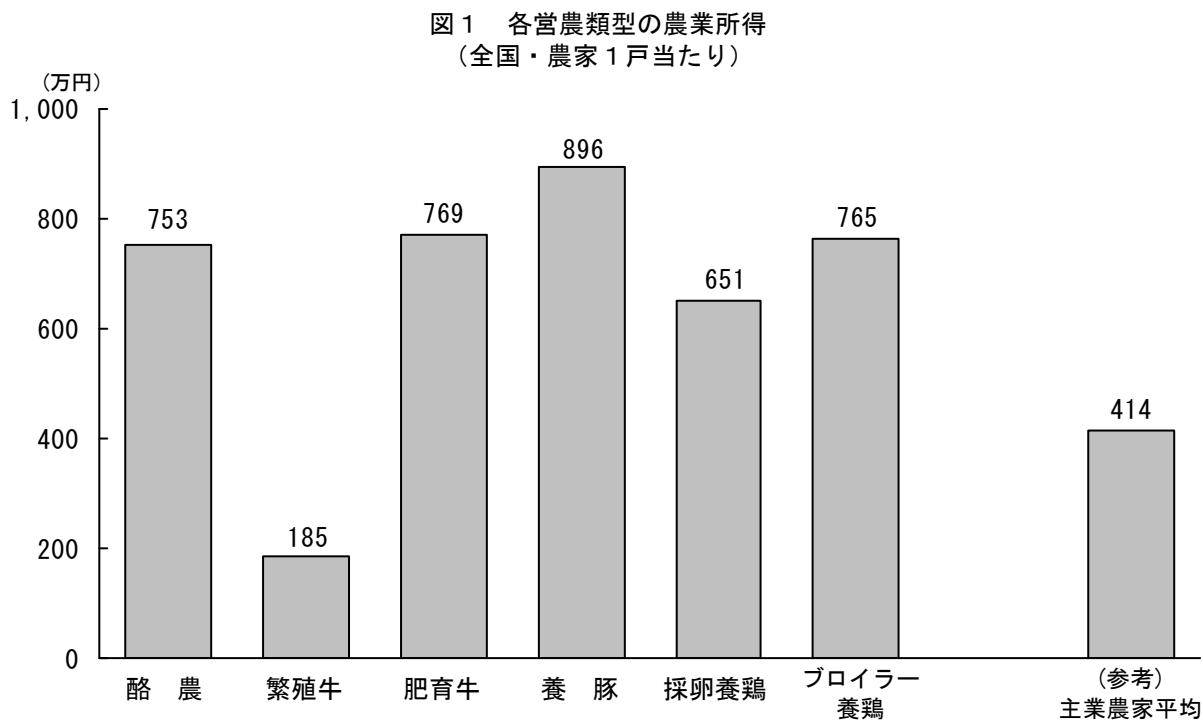
区 分	酪 農		繁 殖 牛		肥 育 牛		養 豚		採 卵 養 鶏		ブ ロ イ ラ ー 養 鶏	
	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率
	万円	%	万円	%	万円	%	万円	%	万円	%	万円	%
農 業 粗 収 益	3 469	0.1	528	3.9	4 194	0.0	4 247	4.1	3 550	18.4	7 675	12.1
農 業 経 営 費	2 716	2.0	343	4.0	3 425	4.1	3 352	4.4	2 899	2.3	6 910	10.0
動 物	382	6.3	45	△ 1.5	1 690	7.9	133	12.3	387	11.5	1 195	12.9
飼 料	1 146	1.1	78	△ 0.1	1 092	△ 0.8	2 102	0.8	1 774	2.2	4 472	8.3
光 熱 動 力	117	7.6	18	19.9	56	9.8	165	12.8	78	11.4	255	13.5
農 業 所 得	753	△ 6.1	185	3.8	769	△ 15.0	896	2.7	651	293.1	765	34.8
飼養頭羽数 (頭、羽)	37	0.0	10	0.0	90	2.3	706	7.6	11 362	4.9	160 375	8.6

注：飼養頭羽数は、酪農は搾乳牛、繁殖牛は繁殖めす牛、肥育牛は肥育牛、養豚は肥育豚、採卵養鶏は採卵鶏の月平均飼養頭羽数である。また、ブロイラー養鶏はブロイラー販売羽数である。

2 各営農類型の収益性

(1) 農業所得

農家1戸当たりの農業所得をみると、養豚経営が896万円と最も高く、次いで肥育牛経営、ブロイラー養鶏経営、酪農経営が700万円を超え、採卵養鶏経営も651万円となっており、繁殖牛経営の185万円を除いて主業農家平均の414万円を上回っている。(図1参照)



注： 主業農家平均は平成17年販売農家(個別経営)の経営収支の結果である。主業農家とは、農業所得が「農業+農業生産関連事業+農外所得」の50%以上で、65歳未満の自営農業従事日数60日以上の方がいる農家をいう。

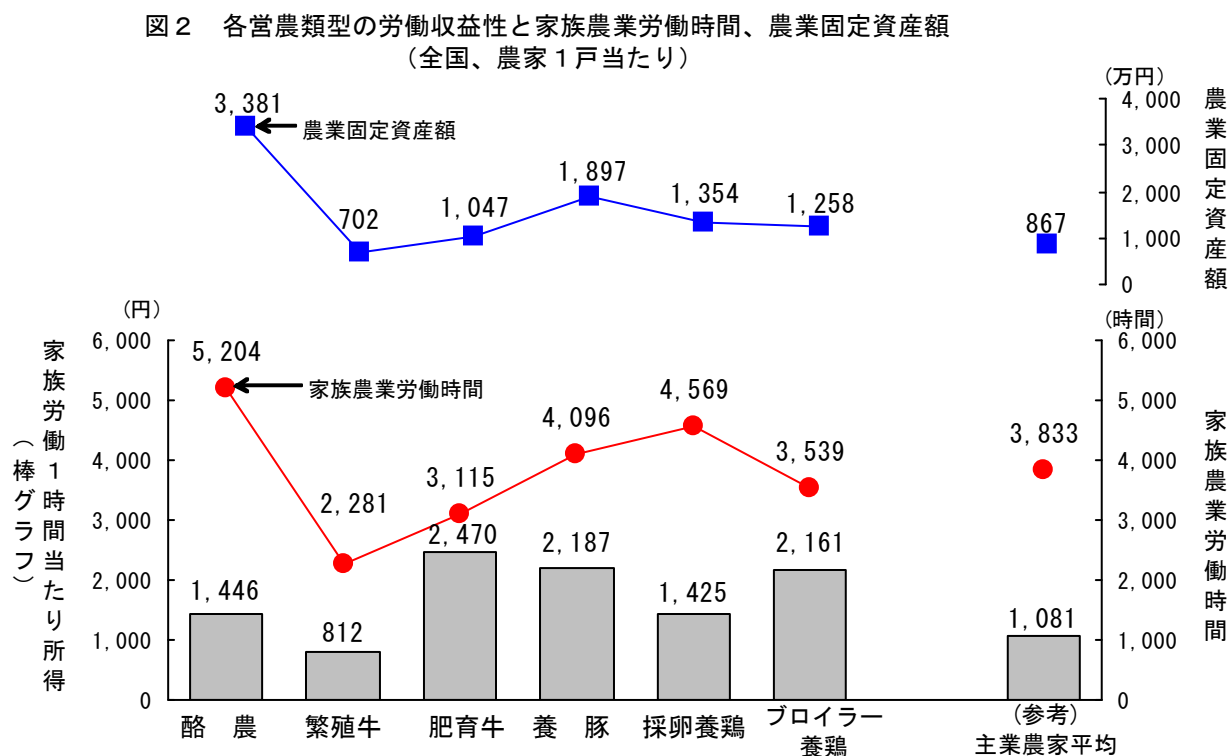
(2) 労働収益性

家族農業労働時間1時間当たりの農業所得をみると、肥育牛経営が2,470円と最も高く、次いで養豚経営、ブロイラー養鶏経営が2,000円を超え、酪農経営、採卵養鶏経営も主業農家平均の1,081円を上回っているとともに、繁殖牛経営も812円と主業農家の水準に近く、畜産経営は労働収益性においても高い水準にある。

一方、家族農業労働時間は、酪農経営が5,204時間と最も多く、次いで採卵養鶏経営、養豚経営が4,000時間を超え、主業農家平均の3,833時間を上回っており、一番少ない繁殖牛経営でも2,281時間と、投下労働量は比較的が多い傾向にある。

また、農業固定資産額は、酪農経営が3,381万円と最も高く、繁殖牛経営を除いて主業農家平均の867万円を上回っており、投下資産額は高い水準にある。

これは、畜産経営が動物の飼養管理を行うことから、労働に季節性がなく周年の労働を要すること、畜舎や付帯設備などの飼養管理のための建物、農機具が必要であることによる。(図2参照)



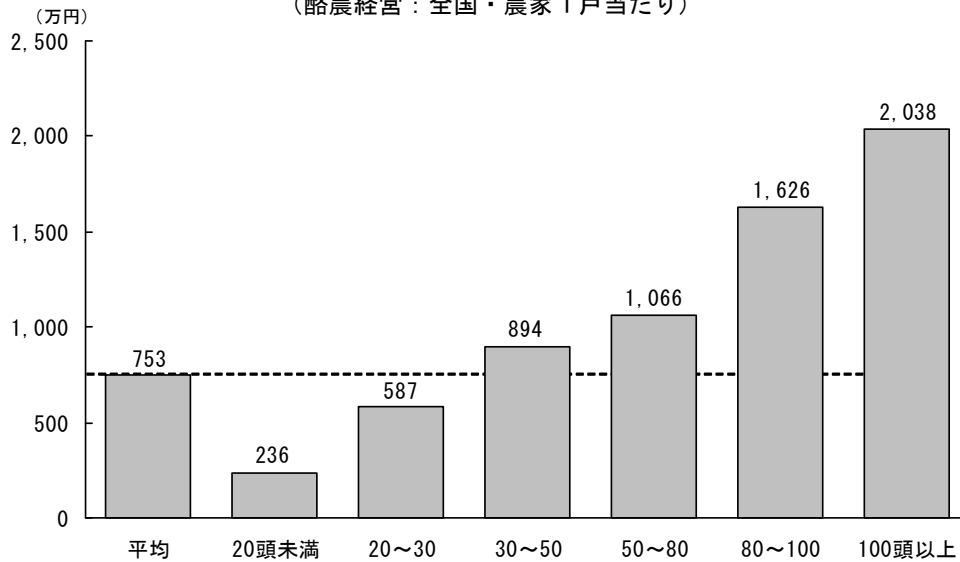
3 飼養規模別の収益性

(1) 酪農経営

酪農経営農家の1戸当たり農業所得を搾乳牛飼養頭数規模別にみると、30頭以上の各階層において平均の753万円を上回っており、100頭以上階層では2,038万円となっている。

(図3参照)

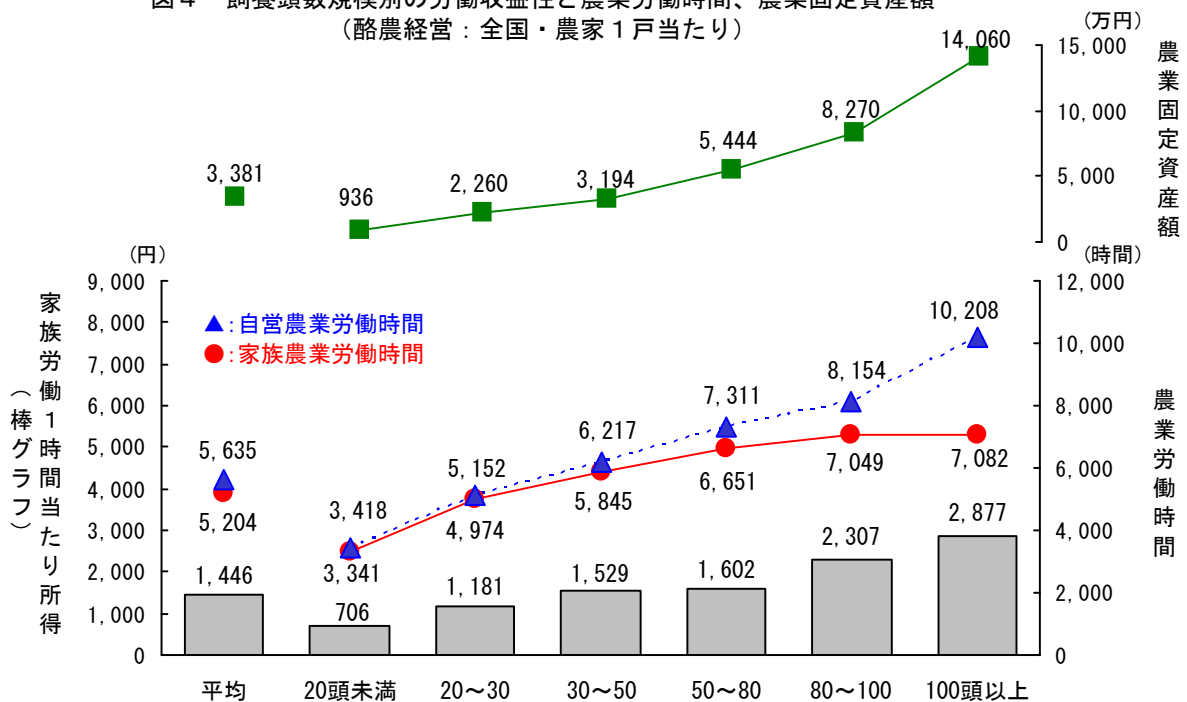
図3 飼養頭数規模別の農業所得
(酪農経営：全国・農家1戸当たり)



家族農業労働1時間当たり農業所得は、規模が大きくなるに従って多くなり、収益性が向上している。

また、家族農業労働時間は規模が大きくなるに従って増加の幅が緩やかになる一方、自営農業労働時間、農業固定資産額は大きく増加している。これは、酪農経営は搾乳や飼養管理など、労働時間が他と比較して多くかかることから、規模が大きくなるほど機械・設備の導入や酪農ヘルパー等の活用により搾乳、飼養管理などの作業の効率化を図っていることによる。(図4参照)

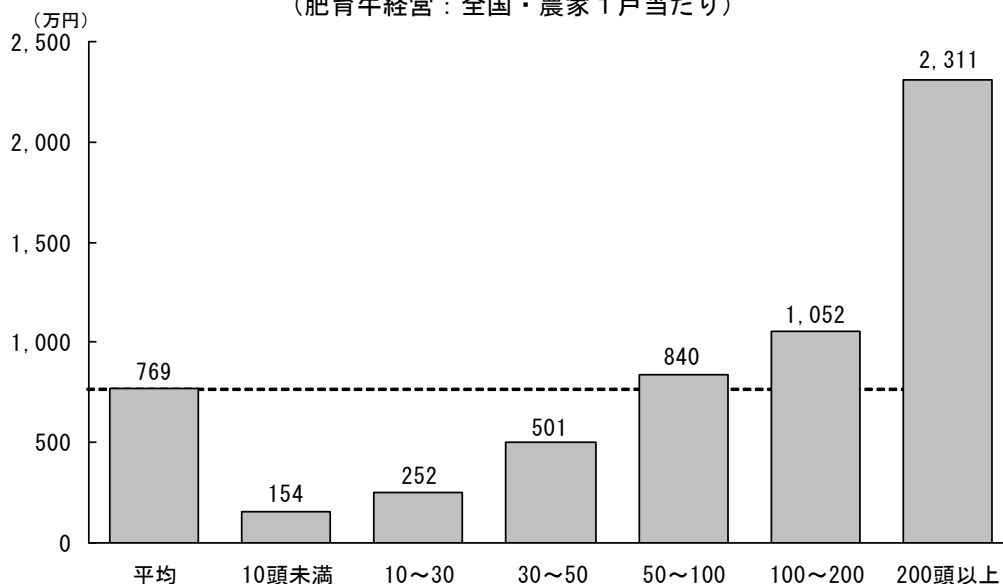
図4 飼養頭数規模別の労働収益性と農業労働時間、農業固定資産額
(酪農経営：全国・農家1戸当たり)



(2) 肥育牛経営

肥育牛経営農家の1戸当たり農業所得を肥育牛飼養頭数規模別にみると、50頭以上の各階層において平均の769万円を上回っており、200頭以上階層では2,311万円となり、特に大規模階層での所得が高くなっている。(図5参照)

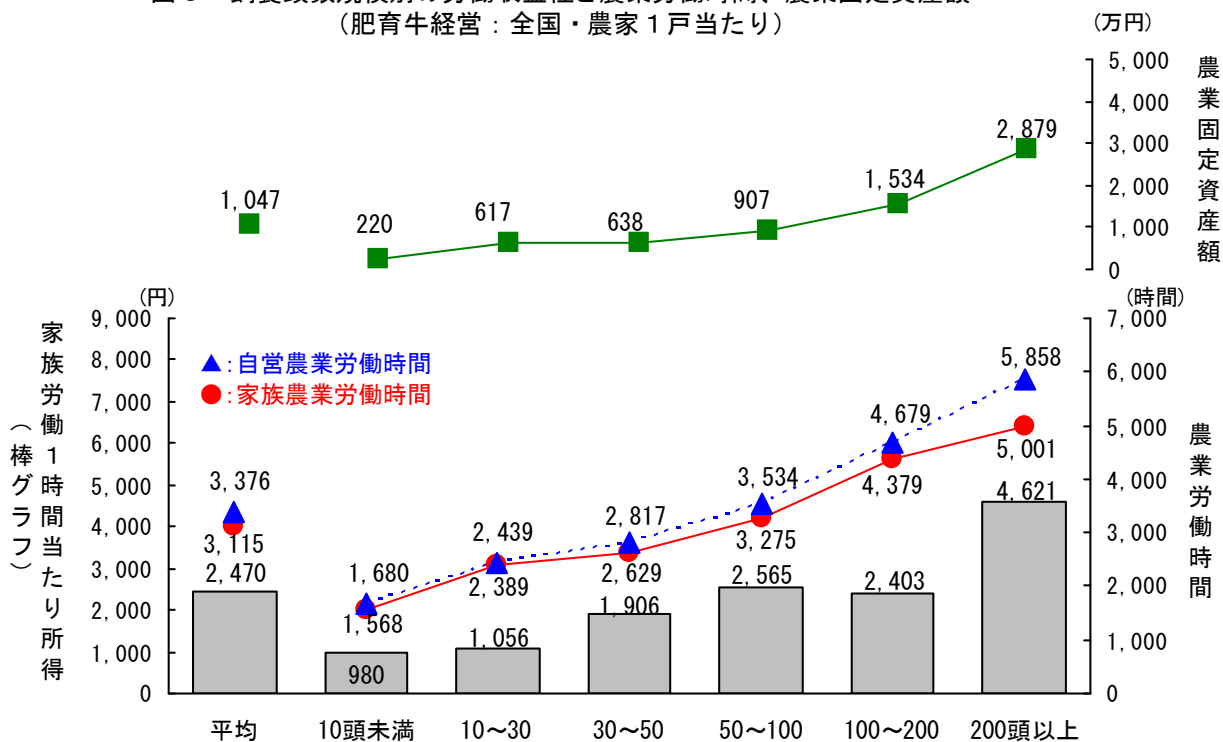
図5 飼養頭数規模別の農業所得
(肥育牛経営：全国・農家1戸当たり)



家族農業労働1時間当たりの農業所得は、規模が大きくなるに従って多くなり、特に200頭以上階層において多くなっている。

また、家族農業労働時間は規模が大きくなるに従って増加し、自営農業労働時間も大規模階層において家族農業労働時間との差が広がる傾向はあるものの、ほぼ同様の傾向となっており、農業固定資産額についても規模が大きくなるに従って高くなっている。(図6参照)

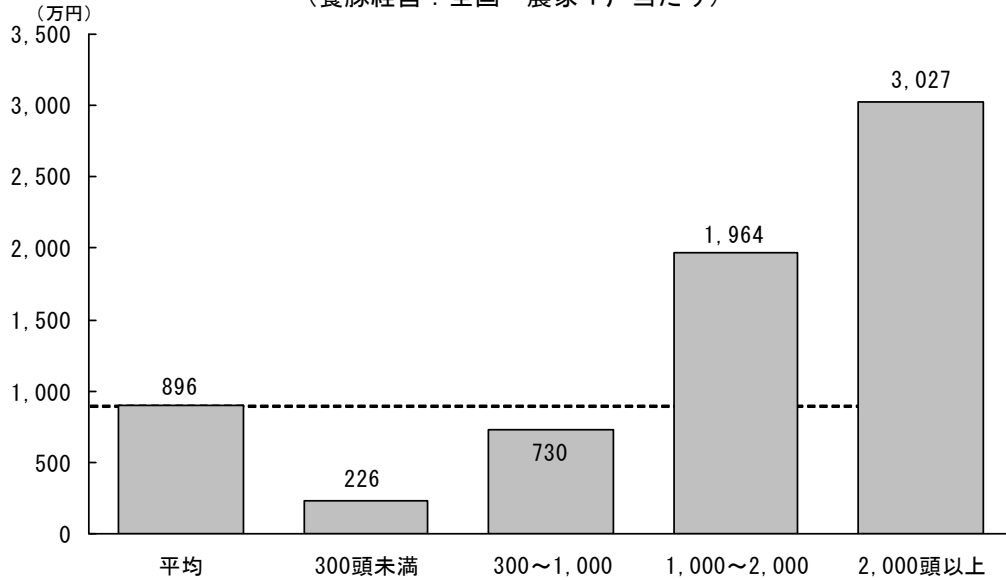
図6 飼養頭数規模別の労働収益性と農業労働時間、農業固定資産額
(肥育牛経営：全国・農家1戸当たり)



(3) 養豚経営

養豚経営農家の1戸当たり農業所得を肥育豚飼養頭数規模別にみると、1,000頭以上の各階層において平均の896万円を上回っており、2,000頭以上階層では3,027万円となっている。(図7参照)

図7 飼養頭数規模別の農業所得
(養豚経営：全国・農家1戸当たり)



家族農業労働1時間当たりの農業所得は、規模が大きくなるに従って多くなり、特に2,000頭以上階層において多くなっている。

また、家族農業労働時間は2,000頭以上階層において減少している一方、自営農業労働時間は大きく増加しており、大規模階層において労働の外部化による効率的な経営を図っていることが現れている。農業固定資産額は規模が大きくなるに従って大きく増加している。(図8参照)

図8 飼養頭数規模別の労働収益性と農業労働時間、農業固定資産額
(養豚経営：全国・農家1戸当たり)

